



住むなら三島 総合戦略推進予算

～平成28年度 市の予算～



平成28年度予算案が市議会2月定例会で可決され、一般会計予算は356億7,000万円で、前年度対比0.4%（1億4,000万円）増となりました。今年度の市の予算についてお知らせします。

問合せ 財政課（☎983-2622）

一般会計予算額
356億7,000万円

特別会計を含む予算総額 639億5,475万7千円



平成28年度施政方針

市議会2月定例会で豊岡市長が述べた平成28年度予算案の基本方針などについて概要を掲載します。

平成28年度は、「市制施行75周年」の節目の年であると同時に、人口減少対策、公共施設の老朽化対策などの多くの行政課題や、複雑多様化する市民ニーズへの対応を的確に反映させた「第4次三島市総合計画後期基本計画」がスタートする、これからの三島市にとってさらなる発展の礎を築く大切な年です。

国が進める、まち・ひと・しごと創生の取り組みを受け、本市でも『住むなら三島 総合戦略～まち・ひと・しごと創生～』を策定し、「若者の結婚から子育てまでの希望をかなえ、魅力的で品格あるひとづくり・まちづくりを進め、幅広い世代の方々や企業から選ばれる都市の創生」を念頭に4つの基本目標を設定し、総合計画に盛り込まれた事業と合わせて、さまざまな施策を実施します。



総合戦略の基本目標

①安心して働ける場所の創出

「内陸のフロンティアを拓く取組」により、産業拠点整備の推進地区に位置付けられた三ツ谷地区において、工業団地を造成するための「土地区画整理事業」を実施して、新たに1,000人の雇用創出を目指します。

また、三島商工会議所、J A三島函南などと連携を密に図り、新たな商品開発や特産品のブランド化、販路開拓などを強力に支援して、雇用の拡大と産業の活性化につなげます。

②新しいひとの流れの創出

市外から三島市に住宅を取得する若い世帯に対して「住むなら三島移住サポート事業」などにより最大で265万円を支援します。このほか、防災・減災機能を備えたゆとりある新規宅地開発を支援する「豊かな暮らし空間創生事業」などを準備することで、首都圏をはじめ県内外の潜在的な移住希望者をターゲットに、魅力的で住みやすいまちとしてのシティプロモーションを強化していきます。

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望創出

地域社会全体で結婚を希望する人の背中を後押しする「婚シュルジュ（結婚世話焼き人）育成事業」の新設や、妊娠・出産から中学校教育まできめ細かく切れ目のない三島スタイルの子育て支援策を展開します。

このほか、市内で安心して出産ができる周産期センターの安定した運営の支援、県内ではいち早く設置した「子育て世代包括支援センター」、三島市独自の「子どもは地域の宝事業」や「みしまめ育児サポーター派遣事業」など、子育て支援体制の強化に努めます。

④時代に合った魅力的なまちの創出

中心市街地および郊外の開発を三島市の実情に合わせて、機能的で品格ある都市としての質の向上を図る「立地適正化計画策定事業」や「地区計画推進事業」など、さまざまな施策を実施し魅力的なまちづくりを進めます。



予算の基本方針「3つの柱」

- ①「ガーデンシティが創り出す都市の品格、交流・にぎわいと活力溢れる産業の振興」
- ②「市民協働で取り組むスポーツ・スマートウエルネスが育む健幸と個性輝く教育・文化の創造」
- ③「コミュニティの絆で高める子育て・福祉の充実と自助・共助・公助が支え合う防災体制の強化」

この3つを予算編成の基本方針と定め、限られた財源を効果的・効率的に活用して、市民の皆さまの暮らしの向上はもとより、将来の発展を見据え、幅広い世代の方々や企業から選ばれるまちづくりのための施策を本予算に盛り込みました。

私はこの予算を「住むなら三島総合戦略推進予算」と考えています。

「歳入・歳出」などの状況

歳入の根幹をなす市税は、全体で前年度対比0.1パーセントの増加を見込むものの、国の地方財政対策において、地方交付税と臨時財政対策債の合計で減額が示されるなど、一般財源の大きな増額は期待できない状況です。このような中、歳出については、子育て支援、高齢者・障がい者福祉などの扶助費、国民健康保険への繰出金が大きく増加してきており、選択と集中により優先順位を明確にした予算配分を心がけました。

なお、各種指標では財政の健全性が示されているものの、年々増加する社会福祉関連経費や公共施設等総合管理計画に基づく老朽化した施設の更新・改修費用、人口減少に歯止めをかける施策に要する経費など、今後も多額の財政需要が見込まれることから、市税を中心とした自主財源の安定的な確保に努め、健全性を持続していきます。

